

「めぐるう」編集員が聞く!

榎本よしたかさんのこと

法廷画家・イラストレーター



榎本さんが描いた法廷画。裁判所での緊迫したようすが伝わってきます。



ネットで大好評のコミックブログ「トコノクボ」。

イラストレーターといえば、中高生に人気の職業。そこで、パソコンでイラストを描く仕事や、法廷画家という珍しい仕事をされている榎本よしたかさんを直撃!

イラストレーターになるまでのお話から、この職業ならではの裏話、プロを目指す人へのアドバイスまで聞いてみました!!

榎本さんの仕事って?

仕事ではよく子ども向け雑誌のイラストやテレビ番組で使われるイラストも描いています。テレビ番組のイラストは、最近では「ひるおび!」、「ヒルナンデス!」などで使われているパネルの絵を描いています。

ボクはもともと他人とコミュニケーションをとるのが苦手だったので、初めのころは、仕事をとるのが大変でした。自分で営業に行っても話を聞いてもらえないことさえありました。

今でも難しいと感じるときがあります。現在では、たくさんお仕事をお願いできるようになって、休みの日がほとんどないのが辛いところです。

犯人はディレクター!? 法廷画って知ってる?

法廷画家とは裁判中の様子を絵で伝える仕事です。この法廷

画はカメラ映像の代わりとして、被告の姿、場の空気などを伝えるためのものです。戦後から法廷にカメラが入る事が禁止されていた、それが今でも残っているため、代わりに法廷画が必要とされています。

こうした法廷の様子を報道することは、国民の「知る権利」のために社会的意義があると思います。

法廷画の仕事ではないですが、報道関係の仕事で印象に残っているのは、犯人の似顔絵作成です。あるニュース番組の



▲6月15日(日)、「めぐるう」第7号の最初のオリエンテーションが目黒区総合庁舎で開催されました。高校生の「めぐるう」編集員が集まり、法廷画家の榎本さんにお話を伺いました。